

# ピアサポートによる障害者就労支援

山下 浩志

(NPO法人障害者の職場参加をすすめる会事務局長)

# 当会の運営する対極的な活動の場

## ▶ 市障害者就労支援センター

- ▶ 市から運営を委託
- ▶ 公共サービス(利用者)
- ▶ 職員雇用
- ▶ 個別支援(個人情報保護)

## ▶ 職場参加ビューロー・世一緒

- ▶ 当会独自で設置
- ▶ 市民活動(利用者から参加者・運営者へ)
- ▶ 過渡的雇用、謝金の性格もつ手当＋ボラ
- ▶ 自助・共助(伝え合いが基本)

# 地理的にも密接な関係

ハローワーク、就  
労支援センター



# ほぼ就労支援センター経由で世一緒へ

- ▶ 世一緒を複数回利用した者100名  
(就労支援センター相談者約800名)
- ▶ 就労経験者(60%)
  - ▶ 幾度も就職するが続かない
  - ▶ ずっと失業が続いている
  - ▶ 失業期間中に地域につながりたい
- ▶ 就労未経験者(40%)
  - ▶ いずれは就職したいがまだ早い
  - ▶ 就職のイメージがつかめない
  - ▶ 就職ではない形でできる仕事を見つけない

# 月曜午前の求人広告チェック会



# どんな人たちが参加しているか

- ▶ 町工場で10年以上の就労経験者も多い
- ▶ 離職後に再就職困難で手帳を勧められる
- ▶ 環境変化で役割を奪われ別の世界に
- ▶ 焦りと無力感
- ▶ 特支学校の優等生が就職してすぐ離職
- ▶ 地域でもまれて来なかった
- ▶ 受け入れる側も障害者とつきあったことなし
- ▶ シカト・いじめへの不安や失敗恐怖
- ▶ 障害はさまざま(限定せず)
- ▶ 無職を好機に 雇用の枠外で地域・職場へ
- ▶ さまざまな他者と関わりつつ腹をくくる



# 重層的な就労困難性とピアサポート

就労困難・就労のイメージ未形成  
→ 支援の客体だけでなく主体にもなる

- ▶ 障害に対する社会の壁（不利益・差別）  
（物理的・制度的・意識的）  
→ 生活、住居、介助、所得、権利擁護と出会う
- ▶ 障害により分けられてきた（関係性）  
→ 障害者同士のピア、周りも含めたピアへ

# ピアサポートのメニュー

世と一緒に実施するピアサポート

気軽に立ち寄って話せる場

## 自助

共に働いたり動きながら考え合える場

## 共助

さまざまな障害当事者や家族・関係者に相談できる場

異なる立場の人々が参加し地域と職場をひらきあう市民活動

三大活動

いつも立ち寄れる

当事者が当番

仕事発見ミッション

グループワーク

当番会議

イベント参加

職場参加を語る会(センター事業)

勉強会・シンポ

個別・グループ相談

ガイダンス

セミナー

グループワークの活用

職場参加を語る会を世と一緒に

(グループ活動を通してピアサポートの大切さをつかむ)

就労支援センターでのピアサポートの導入 **公助**

本人の希望に基づき就労支援プログラムの一環として依頼

# 仕事発見ミッションの事業所訪問



# 仕事発見ミッション

- ▶ 商店街等への飛び込み訪問
- ▶ 短時間の職場体験の機会提供を打診
- ▶ 飛び込むのは本人たちがペアで
- ▶ 人見知りだから続かないと予想
- ▶ 販売でも雇用でもないので不思議
- ▶ 口下手なので相手が訊いてくれる
- ▶ まともに応対してくれるので達成感
- ▶ 40件中39件断られる
- ▶ 5年間に5000件中130件職場体験

# 仕事発見ミッションによる職場体験



# 世一緒当番

- ▶ 月～金の10:00～16:00・原則2人で当番
- ▶ 実習手当または謝金(市外の者):1日千円
- ▶ 鍵の開閉、清掃、電話応対、来客応対(説明も)、記録、事務作業、文書配達
- ▶ ボランティア、ファシリテーターがいる時も
- ▶ 就労経験ある者とない者が同数
- ▶ 口下手、読み書き・計算苦手で他者の手を
- ▶ 緘黙症の来客がよく訊いてくれた
- ▶ ハローワーク職員がむち打ちになりかけた
- ▶ 前の道を掃くがちりとりで集めない
- ▶ 当番会議ではボランティア等から苦情や批判
- ▶ 失敗し謝り、手を借りながら働く→存在アピール

# 来客に世一緒を説明するポスターづくり



# 福祉施設等にも情報提供しグループワーク



世一緒には過渡的雇用、施設には高工賃・交流

# 世一緒の活動でのエピソード

- ▶ 特学卒18年働き倒産後就職、続かない30代
- ▶ 特支学校高等部卒就職間もなく離職の20代
- ▶ 2人がペアでポスティング
- ▶ 30代指示に20代従わずチラシではたかれる
- ▶ 30代は先輩・後輩関係では自然と
- ▶ 20代ショックだが世一緒での反省会で話さず
- ▶ 20代が就労支援センターに相談
- ▶ センター立ち合いで2人が和解
- ▶ ピアの同質性(立場共有)と異質性(別の人生)

# 就労支援の現場でのエピソード

- ▶ 口数の少ない青年が職場を休む
- ▶ 休み時間に先輩社員が頭を整髪
- ▶ ハゲのように刈られ、恥ずかしく仕事に行けない
- ▶ めんどくさいを見ている気安さ、この程度はジョーク
- ▶ 本人は頑として辞める
- ▶ 自分が休んでいる間の仕事を心配
- ▶ 刈り上げた先輩社員を処分
- ▶ 社長自ら坊主頭で謝罪
- ▶ やっと職場復帰を決意、が先輩のあなを心配
- ▶ 共に働く職場でのせめぎあい支える地域の役割

# 世一緒にピアサポートの効用

- ▶ 就労か福祉（医療）かの二者択一をこえる
- ▶ マイナスと思った障害が出会いを生む体験
- ▶ 分けられた焦り・排除される不安をこえて
- ▶ 地域・職場へ出て行くことの楽しみ味わう
- ▶ その後就労者36人、福祉等利用者14人
- ▶ 気軽に立ち寄れる場（障害者だけでなく）
- ▶ 駆け込み寺（就労支援センター、施設と連携）
- ▶ ピアサポートの場が地域・職場状況を浮彫りに
- ▶ 障害者同士から職場・地域のピアサポートへ

# 月1回の職場参加を語る会（近況報告会）



有休を取ったり、シフトをはずしたりしてくる人も

# 障害者から見た各場所の関係性

場所	関係	時間	立場	相手	給付金
事業所 ・職場	雇用 就労	原則 毎日	被雇用者	事業主・ 上司・同僚・客	最低賃金以上
福祉施設 等	利用	原則 毎日	利用者	指導員	内職ベース 工賃(逆に利用料)
就労支援 センター	相談	必要 に応じ	相談者	支援員	無給
世一緒	協働	希望 に応じ	参加者	サポーター ・ファシリテーター・ 地域	賃金相当(手当)・ 実費弁済(謝金)・ 内職ベース工賃・ 無給



# まとめ

- ▶ 市就労支援センターと独自事業
- ▶ 公共サービス(公助)と市民活動(自助・共助)
- ▶ 参加者はほぼ就労支援センターから
- ▶ 就労経験、障害さまざまな者が無職をチャンスに
- ▶ 就労困難の奥にある社会の壁と分けられた関係
- ▶ 伝わらないから続いている事業所飛び込み訪問
- ▶ 失敗したり手を借りて存在感増す世一緒当番
- ▶ 過渡的雇用の性格もつグループワーク
- ▶ 立場の共有だけでなく異なる人生の出会いが重要
- ▶ 世一緒での衝突と就労現場・地域でのせめぎあい
- ▶ 障害者同士のピアサポートから地域のピアサポートへ